

0 はじめに

夜明けが早くなりました。私は朝5時30分頃に起きますが、ついこの間まで暗い中を起きていたのが薄明かりになり、家を出る6時10分頃には朝日が出ています。調べたところ、今日の日の出は5時45分とのこと。昨日は「春分の日」。昼と夜の時間が同じだったんですね。当たり前のことですが、もう春が来ています。

また、校長室から、春を感じさせてくれるかわいい生き物が見えます。皆さん、中庭に2匹の鴨が来ていることに気がついていましたか？ 毎年雪消えの頃になるとやってきます。昼間はどこかへ飛び立っていますが、朝は、皆さんの教室側から見える中庭の防火水槽の縁にいます。今年はいつまでいてくれるでしょうか。

さて、今日も、2つお話をします。

1 パルスオキシメータについて

一つ目はこれです。何だか分かりますか。医療現場等で広く使われている「パルスオキシメータ」です。新型コロナウイルス感染症が大流行したときには、全世界で、多くの人の命を救いました。

パルスオキシメータは、患者の体の状態を調べる指標の一つである「血中酸素飽和度」を測るものです。指に装着するだけで調べられます。実際に採血をしなくても瞬時に血中酸素飽和度を測れるというのは画期的なことです。今でこそ、これくらいにコンパクトになっていますが、最初に製品化された50年前は耳にセンサーを装着して測るもので、機械の本体と合わせると結構大きなものでした。実用性という点で難があったことから商品としてはあまり売れなかったようです。その後、多くの技術者の努力によって、何年もかけて、今のように使いやすく高性能な装置になりました。今「努力」という一言で表現しましたが、研究者たちは多くの失敗を経験し、それでも諦めずに、知恵を出し合って、試行錯誤を繰り返し、少しずつ改良を加え、今の製品にたどりつきました。これからも、より良いものを目指して研究開発は続けられることでしょう。皆さんが取り組んでいる「課題研究」も同じことですね。先週、今週と発表会がありました。失敗と試行錯誤は貴重な

体験であり、そこから、やっと先へ進めるものだと思います。諦めずに、一步ずつ、皆さんの研究を進めて行って欲しいと思います。

話を戻します。なぜこのような話をしたかという、50年前にこのパルスオキシメータの原理を発見し、初めて製品化した青柳卓雄（あおやぎたくお）博士が本校の卒業生だからです。卒業式の式辞で「長岡高校が生んだ英雄」として井上円了を紹介しましたが、青柳博士も、間違いなく本校が生んだ英雄の一人と言えるでしょう。青柳博士は長岡高校を卒業した後、新潟大学工学部（当時の工学部は、すぐその付属長岡中学校・小学校の場所にありました）で電気工学を学び、日本光電工業という医療機器を開発・販売するメーカーに研究者として勤務し、パルスオキシメータの原理を発見しました。その功績は日本ではすぐには認められず、十数年経ってから、カリフォルニア大学の教授が英語の論文で紹介したことから世界的に知られることになりました。職員玄関から2階に上がる階段の踊り場近くに、青柳博士を紹介するポスターを設置してありますので、見て欲しいと思います。

井上円了や山本五十六、宮柊二、半藤一利のように、その名を知られる長岡高校卒業の英雄は多くいます。その一方で、青柳博士のようにその偉業は知られていても自身の名前は余り知られていない人も多くいます。いずれにしても、長岡高校は多くの英雄を輩出してきた学校です。今ここにいる皆さんの中からも、いつかそういった人たちと並ぶ英雄が現れることを期待しています。頑張ってください。

2 最後の「本の紹介」

今日の本は、夏川草介さんの『スピノザの診察室』です。以前に『神様のカルテ』という本を紹介しました。その作者の書いた新しい作品です。主人公の「マチ先生」こと雄町哲郎（おまち てつろう）は大学病院で数々の難しい手術を成功させたスーパードクターですが、ある理由から町中の地域病院に移り、様々な事情を持った患者さんたちの命と向き合います。「人の幸せはどこから来るのか」「生きるということはどういうことか」「患者の幸せとは何か」について考えさせてくれる物語で、「病気を診るのではなく、人を診る」という言葉が印象的です。物語の舞台が京都であることや、地元の有名な和菓子の話題、医師達の強い信頼感が、ゆったりとした時間の流れを感じさせてくれます。ゆっくりと、じっくりと読みたくなる物語です。

もう1冊あります。三浦しおんさんの『舟を編む』です。卒業式の式辞でも少し話しま

したが、辞書を編纂する人たちの物語です。紹介したにもかかわらず、まだ原作を読んでいませんでした。どのような言葉と出会えるか楽しみです。

さて、今年度も続けてきた本の紹介も今日で区切りとなります。小説は、読むことで心を豊かにしてくれると確信しています。皆さん、読書の時間はあるものではなく作るものです。気になる本、目が合った本を見つけて、物語の世界に飛び込んでみてください。

3 おわりに

いよいよ今年度も終わりますね。令和5年度は皆さんにとってどのような1年だったでしょうか。1年を振り返り、4月からの新たな1年に備えましょう。

以上で終わります。